

1. 指導教授

各専攻の学科目を担当する教員を指導教授といい、学生の本学における研究指導にあたる。

2. 修士論文と特定課題研究の選択

修士論文に代えて特定課題研究報告書の提出によって修了するためには、2年次年度始めの履修登録期日までに指導教授および専攻主任教授の承認を受けた上で選択を決定し、所定の書類を教育支援センターへ届け出なければならない。なお、その後の在学期間において修士論文又は特定課題研究報告書いずれかの選択の変更は認められないので十分注意すること。

3. 修士課程を修了するために必要な修得単位数

①修士論文によって修了する場合

実験・演習・文献研究	4単位*
特別研究	8単位
小計	12単位
授業科目	18単位以上*
合計	30単位以上

②特定課題研究報告書によって修了する場合

実験・演習・文献研究	2単位
特別研究	4単位
小計	6単位
授業科目	34単位以上
合計	40単位以上

*共同原子力専攻においては、演習を2単位、授業科目を20単位以上とする。

4. 履修登録方法

履修しようとする授業科目は、必ず指導教授の承認を経て、学期始めに指示された期日までにWEB上にて履修登録をしなければならない。この手続を経ない授業科目は、受講の上、試験に合格しても単位は与えられない。ただし、先行履修科目についてはWEBによる履修登録を行わず、所定の書類を期日までに教育支援センターへ提出すること。

なお、大学院学則第6条第1項・第2項のただし書きに規定する該当者は教育支援センターへ申し出て、履修登録手続きについて指示を受けること。

5. 履修しようとする授業科目の選択方法

(1)必修となる授業科目

専攻する学科目に関する授業科目を必修とする。専攻する学科目に関する授業科目については、教育課程表における学科目表を参照すること。

(2)履修科目の選択に際しての条件は特にない。ただし、共同原子力専攻の場合は、東京都市大学開講科目と早稲田大学開講科目において、それぞれから10単位以上修得しなければならない。なお、共同原子力専攻の開講科目については、他専攻の学生が履修することはできない。

また、コースのカリキュラムを履修する場合には次の項による。

(3)コースのカリキュラムを履修する場合

コースのカリキュラムを履修する学生は、授業科目表中に記す当該コース指定の授業科目より必要な科目を、履修しようとする授業科目に含めなければならない。

各コース指定の授業科目より、定められた単位以上を取得し、かつ、修士課程修了の条件を満たした場合に、コース修了の認定を受けることができ、成績証明書中には、専攻名に加えて当該コースを修了した旨が記載される。

現在開設されているコースは①通信情報処理コースと②先端ナノテクデバイスコースであり、定員が設けられている。希望者が多い場合はコース代表が、コース選択の採否を決定する。

コース修了認定のためのコース指定授業科目の取得に関する条件は以下の通りである。

- ①通信情報処理コース：情報処理基礎及び同演習、情報処理応用及び同演習を含み12単位以上を取得していること
- ②先端ナノテクデバイスコース：先端デバイス特別実験Ⅰ・Ⅱを含み、14単位以上を取得していること

(4)コースの実験・演習を履修したい場合

当該コースを選択しない学生が、コースの実験あるいは演習科目の履修を希望したい場合、それぞれのコースにおいて余裕のあるときにのみ履修が許可される。なお、その許可は当該授業科目担当教員が行う。

(5) 他研究科・他大学院の科目の履修と単位認定について

他の研究科、及び他の大学院における科目は、それぞれをあわせて最大10単位までを指導教授の判断により修了要件に算入できる。なお、これらの手続きは以下の通りである。

① 他研究科の科目を履修

他の研究科における科目を履修したい場合は、事前に指導教授及び当該科目担当者に申し出て、了解を得た上で、「科目履修届出書」によって履修申告することができる。

② 東京理工系4大学大学院単位互換により他大学院の科目を履修

東京理工系4大学の交流協定に基づき、工学院大学大学院、芝浦工業大学大学院、東京電機大学大学院で開講される科目のうち、単位互換可能科目を教育支援センターにて確認の上、指導教授に申し出て了解を得た上で、当該大学院の定める履修登録手続きを行う。

③ 科目等履修生により他大学院の科目を履修

科目等履修生により、他の大学院の科目を履修し修得した場合は、当該科目の「成績証明書」または「単位修得証明書（成績評価が記載されたもの）」とともに指導教授に報告するものとする。

(6) その他

① 指導教授の指示に従って学部の授業科目を履修し、これに合格しても、修了に必要な単位には加算しない。

② 自所属学科目以外の他学科目に属する実験・演習等を履修することはできない。

6. 科目試験

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」がある。また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定する。ただし、平常の成績をもって試験の成績に代えることがある。

7. 成績の評価

成績の評価を秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)の5段階に分け、秀・優・良・可を合格とする。

8. 学位論文又は特定課題研究報告書に関する届け出

■ 修士課程（共同原子力専攻を除く）

① 修士論文によって修了する場合：1年次終了時、1年以上在学した上で、所定の用紙により学位論文の主題とその研究計画書を指導教授に提出しなければならない。

② 特定課題研究報告書によって修了する場合：1年次終了時、1年以上在学した上で、所定の用紙により特定課題研究の主題とその研究計画書を指導教授に提出しなければならない。

①②共通：大学院学則第6条第1項のただし書きに規定する該当者は教育支援センターへ申し出て、手続きについて指示を受けること。

■ 博士後期課程

2年以上在学し、所定の用紙により学位論文の主題とその研究計画書を指導教授に提出しなければならない(なお、大学院学則第6条第1項・第2項のただし書きに規定する該当者は教育支援センターへ申し出て、手続きについて指示を受けること)。ただし、いずれの課程も休学期間は在学期間に含まないので、注意すること。

9. 学位論文・特定課題研究報告書の提出

修士論文・特定課題研究報告書および博士論文は、審査委員会の委員人数分を作成し、所定の期日までに指導教授を通じて学長に提出しなければならない。なお、英文による学位論文作成の場合は和文の概要を一部添付すること。

10. 最終試験

最終試験は学位論文又は特定課題研究報告書を中心として、これに関連ある科目ならびに外国語について行う。外国語は、原則として一種類を課する。試験は、口頭または筆答あるいは口答および筆答の方法によって行う。

11. 学位の授与

■修士課程

- ①修士論文によって修了する場合：本大学院研究科の修士課程に所定の期間在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導等を受けた上、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格したことをもって修了したものとす。
- ②特定課題研究報告書によって修了する場合：本大学院研究科の修士課程に所定の期間在学して、40単位以上を修得し、かつ必要な研究指導等を受けた上で、特定課題研究報告書を提出しその審査および最終試験に合格したことをもって修了したものとす。
- ①②共通：修士課程を修了した者には修士（工学）の学位を授与する。ただし、共同原子力専攻を修了した者には、修士（理学）の学位を授与する場合がある。

■博士後期課程：本大学院研究科の博士後期課程に所定の期間在学し、24単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格したことをもって修了したものとす、博士後期課程を修了した者には博士（工学）の学位を授与する。ただし、共同原子力専攻を修了した者には、博士（理学）の学位を授与する場合がある。また、共同原子力専攻においては、単位制による科目の授業を行わない。

12. 学位の種類

本研究科において授与する学位は修士（工学）および博士（工学）である。
 （ただし、共同原子力専攻は修士（理学）および博士（理学）の学位を授与する場合がある。）

13. 博士論文の公表方法

平成25年4月1日より博士論文は、インターネットによる公表が義務付けられているため、博士論文の電子データを学位授与式までに教育支援センターへ提出すること。ただし、やむを得ない事由があり、インターネットによる公表が困難な場合には、事前に教育支援センターへ相談の上、紙媒体の博士論文を2部提出すること。

[参考] 修士論文・特定課題研究主題申請書
 修士課程2年次4月に主題に提出

修士論文・特定課題研究 主題申請書	研究計画書
平成 年 月 日	内容要旨
東京都市大学長 殿
専攻名 _____ 専攻
学 科 目 _____
学 籍 番 号 _____
氏 名 _____ 印
下記のとおり修士論文又は特定課題研究の主題と研究計画を定め申請いたします。
記
主 題 _____
指導教授 _____ 承認印 印
(注意事項)
1. 2部作成し、それぞれ教育支援センター提出用、指導教授控用とする。
2. 指導教授の承認印を得た上で1部を教育支援センターへ提出すること。
3. 指導教授の出張等の都合をふまえ、締切に間に合うよう承認印をもらうこと。
4. 糊付け等は不可。1度コピーし、1枚の用紙にした上で印を押すこと。
5. 本用紙はA3判で印刷すること。

上記書式および修士論文または特定課題報告書用書式M-2～6等は、SCポータルサイト内の文書ライブラリより、ファイルをダウンロードすること。
 ファイルの形式が使用のパソコンと合わない場合には、教育支援センターに申し出ること。